

大阪府立三国丘高等学校 学校外部の発想を積極的に活用した本校独自のCSカリキュラム（大阪府）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約1,000名
（うちSGH Core Program受講者は約125名とする）
- SGH対象学科：
（各学年40-50名程度を対象とする）
- HP：<https://www.osaka-c.ed.jp/mikunigaoka/all-index.html>
（SGHの取組はこちら：
https://www.osaka-c.ed.jp/mikunigaoka/zenniti/08_SSH_SGH/SGH/sgb.html）
- SGH委託費用総額：約4,792万円
（H26：1,553万円、H27-H30 680万円～1,000万円/年で推移）
- 校内の体制：SSHや他の課題研究との協働を計るCS（Creative Solutions）委員会 指定開始時は3名程度だったが、生徒の対象拡大に伴い創設
- 国内連携機関：京都大学、関西学院大学や日本政策金融公庫等と連携
- 連絡先
✉ TanakaKazuyo@medu.pref.osaka.jp
☎ 072-233-6005

何を目指したか

- 地球規模での持続可能な社会の構築に貢献する
創造的課題解決能力を持つ人材育成

ツールのポイント

- 1 自由なビジネス開発に誘導できるよう、海外大学、国際機関の学びのアイデアを活用し、1年生時に生徒が自分で動くためのインプットをする
- 2 将来のグローバルリーダーに必要とされる資質を外部専門家と共に模索し他者評価を通じたメタ認知と、他者の改善を促すワークショップを採用

SGH事業実施に必要な資源



人員

- 異文化理解指導教諭を筆頭に3名の教員と、1名の国際機関勤務経験者（OB）で、計画を熟考。その後指定3年目に委員会を立ち上げ、組織として課題探究ができるよう計画的な人事に



金銭

- SGH予算を外国人講師2名、コーディネーター1名の人件費、海外研修の生徒分に主に活用。また大学等の専門家を招く講師謝金にも活用



時間

- 特に計画策定時、プログラム立ち上げ時は一部の教員に負担がかかり、毎晩遅くまで勤務することもあり



心理

- 伝統校ゆえ開始直後は全員が納得する雰囲気があるわけではないが、成果によりSGHや課題研究を理解してもらうムードを醸成。また「まずは生徒への見守りを」と心理的ハードルを下げて仲間を増やす工夫も

Plan

ツール作成の背景

- 平成21年度から大阪府のグローバルリーダーハイスクール（GLHS ※現在の名称）の指定を受け、異文化理解教育を実施。その際に、Creative Solutionsという名のもと、一名の教員で、グローバル教育を進めていた
- 当時は体制、計画ともに盤石でなかったため、進学のためのキャリア教育という色が強く、課題探究の色を一層進める必要があるとの問題意識があった
- 一貫した課題探究×グローバル教育の必要性を感じながら、自治体の教育予算も減少傾向にあり、財源の必要性を実感。SGHを積極的に活用する方向へ
- 国際人としての理念、先進国、途上国を学び、自由な発想のビジネスプランを提案できることを目指し、体系的なカリキュラムと評価の仕組みを構築
- 教職員の多くはビジネスを経験したことがないため、企業、大学講師などのノウハウも積極的に活用

Do

ツールの解説

- ✓ Creative Solutions（CS）カリキュラム
- ✓ 評価ワークショップの説明サイト

取組概要

- スタンフォード大学の起業家講座の書籍やビデオなどを基に担当教員が学び、高校生向けにアレンジし教材開発をした授業（Let's be creative）や、元国連職員研修講座を基にアレンジした授業（Logical Framework）等を組み入れ、生徒が自分で動き、自由にビジネスを発想できるよう支援

成果

- オープンマインドや多様性の理解については、2年生時点で伸びがあり
- 新たな視座やフォローシップなどの能力は3年生時点で一層の伸びがあり

取組概要

- ルーブリックだけでなく、グローバルリーダーとしての資質を測る評価方法を模索
- 時間を区切り、具体例を記載できる自己評価を行い、自信を持てた点、悔しかった点など印象に残る評価を実施
- その後他の生徒による他者評価を経て、他者との対話の中でメタ認知を行う

成果

- 当初は他者評価に遠慮がちな生徒もいたが、人格の指摘はしないなどの聞き取りルールを定め、大学進学時の志望動機作成などでも他者評価を採用する生徒も

Check

取組内容の評価

- 3年生の対象生徒の約半分が創造的課題解決能力の伸びを実感
- また高校生ビジネスプラン・グランプリ優勝、SGH全国高校生フォーラムで審査委員長賞を受賞したチームもあり（高校生ビジネスプラン・グランプリはファイナリストや100位入賞チームを毎年輩出）

Action

指定期間終了後のいま

- ビジネスへの導入を支援するだけでなく、SDGsへの導入支援もめざし、社会課題への挑戦を実施。若手教員の関心を持てるテーマを積極的に採用（現在はスーパーグローバルプログラム（SGP）という名前で評判の高い授業を実施）
- 同窓会の支持を確保し、教員渡航費を捻出